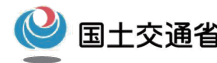


モビリティDXプラットフォーム NEWSLETTER

第6号



モビリティDXプラットフォーム 今後のイベントについて

プラットフォーム会員交流イベント(第2回案内)

2025年1月16日(木) 14:00~19:10

自由な情報共有・ディスカッションや交流

プラットフォーム会員交流イベント

— 第2回 —



●概要

モビリティDXプラットフォーム会員同士の自由な情報共有・ディスカッションや交流のためのイベント

●目的

様々なテーマについて、会員の取組事例のプレゼンテーション、ディスカッション、ネットワーキングなどを行い、プラットフォーム会員同士の交流を促進するとともに、モビリティDXに関する知見を深めることを目指します。

●第2回概要

自動運転と新たな価値創出の2テーマで、プレゼン・トークセッションを行い、各社取組への理解を深めるとともに、今後のモビリティ産業の絵姿を語る。

開催日時：2025 / 1 / 16 (木) 14:00 ~ 19:10

開催方法：現地参加 もしくは オンライン配信

開催場所：STATION-Ai イベントスペース

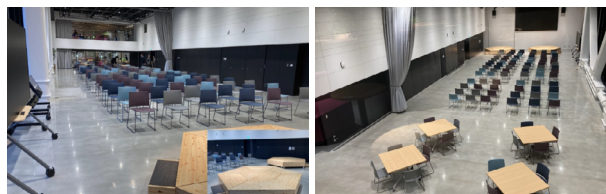
アクセス：〒466-0064 愛知県名古屋市昭和区鶴舞

1丁目2番32号

JR鶴舞駅(STATION Ai前 駅)から徒歩6分

※名古屋駅から2駅

●会場イメージ



●タイムスケジュール

Time	Agenda	Title・Contents	Speakers
14:00 (10min)	開会		経済産業省
14:10 (10min)	プレゼン ①	May Mobility 自動運転技術の日本への導入	May Mobility Japan 合同会社 中村 卓史
14:20 (10min)	プレゼン ②	金沢大学の自動運転技術の社会導入に向けた取り組み	株式会社ムービーズ 菅沼 直樹
14:30 (10min)	プレゼン ③	(仮) イービー愛知の取り組み	イービー愛知株式会社 伊藤 勝規
14:40 (10min)	プレゼン ④	SDVで変わる。次世代モビリティの設計・生産	電動モビリティシステム専門職大学 川端 由美
14:50 (35min)	トーク セッション テーマ ①	自動運転の社会実装に向けた取組	モデレータ 須田 義大 登壇者4名+経済産業省 自動車課モビリティDX室長 伊藤 建
15:25 (10min)		質疑応答①	
15:35 (10min)		休憩	
15:45 (10min)	プレゼン ⑤	"Move" for All すべての人に移動と感動を	トヨタ自動車株式会社 後藤 淳一
15:55 (10min)	プレゼン ⑥	必要な移動を楽しい移動に	ソニーグループ株式会社 高梨 伸
16:05 (10min)	プレゼン ⑦	車載アプリ多様化による移動体験の付加価値向上の可能性	株式会社 Bashow 程塚 正史
16:15 (10min)	プレゼン ⑧	モビリティ×エネルギーのセクターカップリングの実現に向けた取り組み	AZAPA株式会社 宮田 豊
16:25 (35min)	トーク セッション テーマ ②	新たな価値創出に向けた取組	モデレータ 高田 広章 登壇者4名+経済産業省 自動車課モビリティDX室長 伊藤 建
17:00 (10min)		質疑応答②	
17:10 (20min)	閉会・休憩		経済産業省
17:40 (100min)		懇親会	

※登壇者のプレゼンテーションの順番については変更になる可能性があります

●登壇者

・プレゼン1

May Mobility 自動運転技術の日本への導入



中村 卓史
May Mobility Japan 合同会社

三菱重工(株)で約20年間システムエンジニアとしてロケットの設計/開発/運用/企画に従事。同社米国法人で投資事業、(株)デンソーで新事業開発に従事し、2024年10月から現職。目標は人々の可能性を技術で広げて笑顔を届けること。米国CPA。

・プレゼン2

金沢大学の自動運転技術の社会導入に向けた取り組み



菅沼直樹
金沢大学 高度モビリティ研究所 教授(副所長) /
株式会社 ムービーズ 代表取締役

金沢大学自然科学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。金沢大学助手・准教授等を経て現職。1998年から自動運転の研究に従事し、2015年には国内の大学初の公道走行実証を開始。2024年に(株)ムービーズを設立し、現在に至る。

・プレゼン3

(仮) イービー愛知の取り組み



伊藤 勝規
イービー愛知株式会社 代表取締役

2011年起業。大学/自治体/企業の研究課題を共に解決させて頂く課題解決企業として自動運転に関連した3D地図測量/データ加工やモデリング、車両改造やセンサ架装、ドライビングシミュレータやデータ制作を主な事業として活動。

・プレゼン4

SDVで変わる。次世代モビリティの設計・生産



川端 由美
電動モビリティシステム専門職大学・准教授/ジャーナリスト/
ストラテジスト

工学修士。住友電工にてエンジニアとして務めた後、自動車専門誌の編集記者に転身。自動車ジャーナリストとして独立後、環境問題と自動車技術を中心に取材。欧州系戦略コンサルにてイノベーション・ダイレクターに就任。現在は電動モビリティシステム専門職大学・准教授として教鞭を取る傍ら、国際学会や展示会を取材し、執筆活動も行う。デジタル庁有識者委員、内閣府SIPピュアレビューアールなど政府へのアドバイスも行う。

・プレゼン5

"Move" for All すべての人に移動と感動を



後藤 淳一
トヨタ自動車株式会社 CJP企画部 主査/担当部長

車両開発、コーポレート戦略企画、新幹線物流プラットフォーム事業会社設立&経営トップ、車両開発責任者、事業企画責任者、CJPTプロジェクトリーダー等を歴任。現在、e-Palette事業および新モビリティサービス事業等を統轄。

・プレゼン6

[必要な移動を楽しい移動に]



高梨 伸
ソニーグループ株式会社 SC Pj. プロジェクトマネージャー

1990年ソニー株式会社入社し、カムコーダーのメカ設計を担当(CCD-TR55、CCD-SC55、DCR-PC7等)。2000年携帯電話メカ設計に異動、au向モデル担当。2008年携帯電話の企画開発及びデザイン担当、2014年~SCプロジェクトを開始、現在に至る。

・プレゼン7

車載アプリ多様化による移動体験の付加価値向上の可能性



程塚 正史
株式会社 Bashow 代表取締役 CEO

元日本総合研究所シニアマネジャー。自動車・モビリティ領域の変化の方向性に関する論文・書籍の執筆等の他、4つの新事業を繰り返し創出。2024年4月に株式会社 Bashow を設立。車載アプリ市場の基盤システム構築を目指す。

・プレゼン8

モビリティXエネルギーのセクターカップリングの実現に向けた取り組み



宮田 豊
AZAPA株式会社
取締役/経営企画担当

2015年12月よりAZAPA株式会社にIPO準備責任者として入社し、会社の機関設計、内部統制対応などの業務を行いながら、主幹事証券、監査法人の対応を行う。その後、財務をメイン領域とし第三者割当増資、デッド調達を行いながら、バックオフィス・プランディング人事採用業務を担当している。

・トークセッション第1部

自動運転の社会実装に向けた取組



中村 卓史



菅沼直樹



伊藤 勝規



川端 由美



経済産業省 製造産業局自動車課
モビリティDX室長
伊藤 建



<モデレーター>
(一社)モビリティ・イノベーション・アライアンス 副理事長
東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長・教授
須田 義大

・トークセッション第2部

新たな価値創出に向けた取組



後藤 淳一



高梨 伸



程塚 正史



宮田 豊



経済産業省 製造産業局自動車課
モビリティDX室長
伊藤 建



<モデレーター>
名古屋大学 モビリティ社会研究所
所長・教授
高田 広章

●参加対象者

- ・モビリティ業界への興味を持っている方
 - ・モビリティDXプラットフォームの会員同士で繋がりたい方
- ※自動車メーカー・サプライヤー、スタートアップ、大学・研究機関、異業種、学生・個人など幅広い方々の参加をお待ちしております

●参加メリット

- ・テーマに関する会員の取組事例についてのプレゼンテーションを通じて、モビリティDXに関する知見を深めることが可能
- ・ディスカッション、ネットワーキングを通じて、プラットフォーム会員同士の交流の促進が可能

●参加費用

無料 ※交通費は自己負担

●参加方法

モビリティDXプラットフォーム会員交流イベント
第2回のお申し込みはこちらよりお申し込みください。
https://www.jsae.or.jp/enquete/exchange_event_02/
詳細は後日Webサイトに公開いたします。



自動運転 UX 創造チャレンジ アイデアソンのエントリーを募集中！

「自動運転の車内で提供できるサービスのアイデアとそれを実現するHMI」をテーマとして、自由な発想での次世代移動体験のデザインを募集しています！

応募された方はプロのエンジニアにシステム構成図に関するご相談をすることが可能です。

新しいサービス開発に携わってみたい方、移動体験の未来を考えてみたい方など、是非この機会をご

利用ください。

自動車業界での経験がない方や学生の方のご応募も大歓迎です！

応募・詳細はこちらから
(1 / 17 (金) 12 時まで)

※アイデア企画資料の提出はメッセンジャーでも可能です！

<https://bd.techplay.jp/sdv-ideathon>



その他関連イベントについて

人とくるまのテクノロジー展 2025

公益社団法人自動車技術会が主催する人とくるまのテクノロジー展 2025 は、パシフィコ横浜で 5 月 21 日 (水)～ 23 日 (金)、Aichi Sky Expo で 7 月 16 日 (水)～ 18 日 (金) に開催する事が決定いたしました。

本展示会では毎年業界の旬なテーマにフォーカスし、主催者企画の展示・講演を実施していますが、2025 年のテーマを「新しい技術との融合で創るくるまとモビリティの未来 -DXで広がる自動車技術-」とし、「クルマの進化」、「クルマを取り巻く社会・

サービスの進化」、「モノづくりの進化」の 3 つの観点から内容を構成し準備を進めております。本企画が自動車業界の DX について、ともに自動車の進化を考える場になれば幸いです。

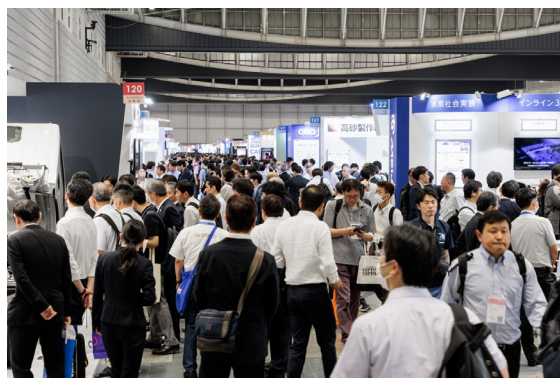
その他、名古屋展示会ではアカデミア・スタートアップ企業の方の為の特別出展プランなどもご用意し、業界内外の交流を促進する企画が多数ございます。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

本展示会の詳細は以下ウェブサイトをご参照ください。

詳細はこちら <https://ae.expo-info.jsae.or.jp/ja/>



2025年のJSAE企画テーマ



人とくるまのテクノロジー展 2024 の様子

モビリティDX戦略策定後の進捗

令和6年度モビリティDX検討会の議論

2024年12月より令和6年度モビリティDX検討会のワーキンググループ（SDV領域WG、モビリティサービス領域WG、データ利活用領域WG）を開始しました。

●第1回SDV領域WG

モビリティDX戦略で示した多様なSDVの必要性やSDV普及の見込みについて深掘りを行うとともに、SDVの重要要素（協調領域）のうち、サイバーセキュリティ、ソフトウェア人材、生成AIについて、また、SDV領域の競争力強化に向けた標準化・ルール形成について議論しました。

詳細はこちら

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/jido_soko/01sdv_wg/202401.html

●第1回モビリティサービス領域WG

2025年度までのRoAD to the L4プロジェクトの完了時点で想定される成果・残課題・新たに明らかになる課題を整理し、それらを踏まえて今後必要と考えられる取組、自動運転タクシー等のオンデマンド型自動運転移動サービスの普及に向けた取組の方針等について議論しました。

詳細はこちら

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/jido_soko/02mobility_wg/202401.html

●第1回データ利活用領域WG

データ利活用領域における産業構造変化と海外動向について整理するとともに、国内におけるユースケース拡張に向けた有望ユースケースについての議論に加え、海外へのユースケース展開に向けた対象国の選出や、展開の検討方針等について議論しました。

詳細はこちら

https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/automobile/jido_soko/03data_wg/202401.html

モビリティDXに関わる国内外動向について

- アプライドEVは、スズキを主要OEMパートナーとして、初の自動運転専用物流車両を導入しました。
➔ <https://www.appliedev.com/news/aev-introduces-first-autonomous-only-logistics-vehicle>
- モビリティを前進させるVayは、NVIDIA DRIVE AGXで先進的な自動車ソリューションを道路に導入します
➔ <https://blogs.nvidia.com/blog/vay-drive-agx/>
- レベル4自動運転トラック幹線物流輸送実現に向けた公道実証に日本郵便・JPロジスティクスが参加
➔ <https://t2.auto/news/20241212.pdf>
- FPTは、デンソーとソフトウェア定義車両のイノベーション加速に向けたMOUを締結
➔ <https://fptsoftware.jp/newsroom/news-and-press-release/press-release/20241213>
- 車輪の再発明：Beontagがミシュランと提携し、革新的なRFID対応「スマートタイヤ」を製造
➔ <https://www.beontag.com/press-releases/reinventing-the-wheel-beontag-partners-with-michelin-to-produce-revolutionary-rfid-enabled-smart-tires/>
- 日本交通とGOと提携して初の海外ロードトリップを開催
➔ <https://waymo.com/blog/2024/12/partnering-with-nihon-kotsu-and-go-on-our-first-international-road-trip>
- ヨーロッパで完全電動のZeekr 7Xを導入：世界中の家族に直感的に適応するSUV
➔ <https://www.zeekrglobal.com/posts/introducing-the-all-electric-zeekr-7x-in-europe-the-suv-that-intuitively-adapts-t>
- 3次元点群データ閲覧サービス「3Dmapspocket®」機能アップデート
➔ <https://www.dynamic-maps.co.jp/news/2024/1216.html>
- ソリトンと名古屋大学、自動運転を遠隔から簡易な操作で走行支援できる遠隔型自動運転「遠隔アシスト」を開発
➔ <https://www.soliton.co.jp/news/2024/006246.html>
- レベル4自動運転トラック幹線物流輸送実現に向けた公道実証に福山通運が参加
➔ <https://t2.auto/news/20241217.pdf>

- Mapbox、Arm社との提携により仮想ヘッドユニット (VHU) を発表 ソフトウェア定義車両 (SDV) のナビゲーション開発を加速
➔ <https://www.mapbox.jp/news/newsrelease-20241217-2>
- 自動運転を支える高速車載通信システム「CAN FD」に対応したTVSダイオード「ESDCANxxシリーズ」を開発
➔ https://www.rohm.co.jp/news-detail?news-title=2024-12-18_news_diode&defaultGroupId=false
- Helm.aiがGenSim-2を発表：自動運転開発のためのビデオ編集機能を備えた生成AI
➔ <https://helm.ai/post/helm-ai-announces-gensim-2-generative-ai-with-video-editing-capabilities-for-autonomous-driving-development>
- プレッシャーの下で：TeslaのTPMSにおけるゼロクリックRCE脆弱性の調査
➔ <https://vicone.com/jp/blog/under-pressure-exploring-a-zero-click-rce-vulnerability-in-teslas-tpms>
- SDVの進展に伴う車載半導体・電子部品市場の需要額見通しを発表
➔ <https://www.jeita.or.jp/japanese/topics/2024/1219-2.pdf>
- スイス再保険の新調査：ウェイモは最も先進的な人間が運転する車両よりも安全
➔ <https://waymo.com/blog/2024/12/new-swiss-re-study-waymo>
- 自動運転マルチモーダルデータセット「CoVLA-Dataset」全データを公開
➔ https://tur.ing/posts/tgky_ztb
- 三菱電機モビリティ、豪州ソフトウェア企業Seeing Machinesと資本業務提携に関する契約を締結
➔ <https://www.mitsubishielectric-mobility.com/jp/news/2024/pdf/1223.pdf>
- TIS・ピクセルインテリジェンス・ホット沖縄総合研究所、自動運転車を活用した無人移動販売の実証実験を開始
➔ https://www.tis.co.jp/news/2024/tis_news/20241223_1.html
- 路車協調システムの技術的検証を目的とした自動運転実証実験（国土交通省 道路局）7地域参画のお知らせ
➔ <https://smicip.com/news/241219/>

モビリティDX会員限定!ニュースレターへの記事掲載をご希望される方へ

本ニュースレターを活用してモビリティDXに関わる情報発信をしたい方は<問い合わせ先>まで氏名、ご所属をご連絡ください!

●掲載に関する詳細は以下の通りです。

- ・ご連絡いただいたタイミングで間に合う号への掲載となります
- ・掲載量は1件につき1/2ページ以内となります
- ・URL等外部サイトへのリンクの記載は可能です
- ・記事に関する問い合わせ先をご記載ください
- ・掲載情報は技術紹介や取り組み事例の紹介に限ります。個社の製品やサービスの宣伝はご遠慮ください。事務局が趣旨に合わない内容と判断した場合はお断りする場合がございます。